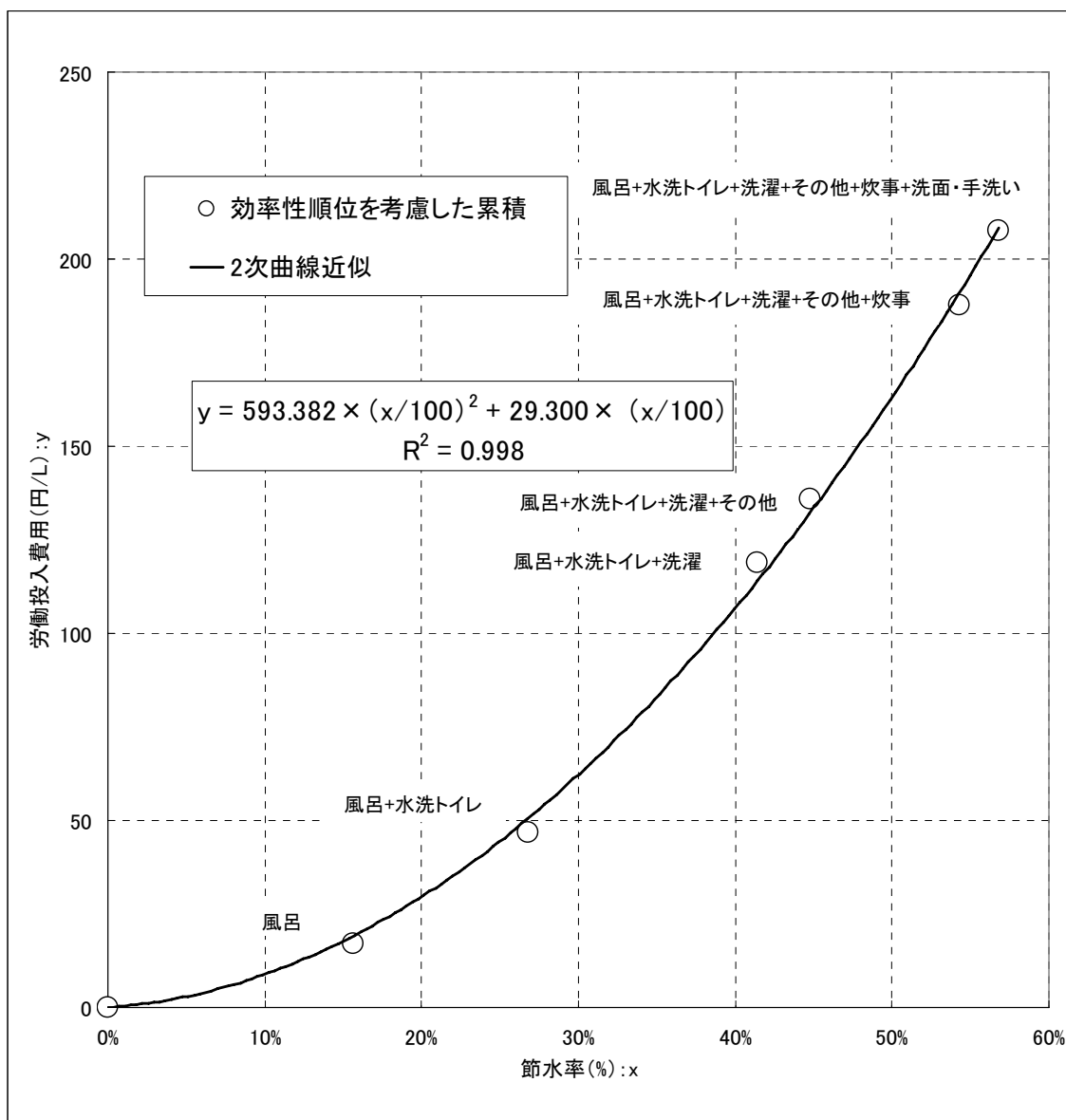


また、節水量1%当たり労働投入費用が小さい値（効率的）となる使用用途は、「風呂」、「水洗トイレ」、「洗濯」、「その他」、「炊事」、「洗面・手洗い」の順である。このことは、洗面・手洗いでの節水では手間はかかるが節水量は少ないことを示している。

つまり渇水時に実施される節水行動は、効率的な使用用途から実施されるとすると、図V-3-3-2に示すように、効率性順位を考慮した節水率と労働投入費用との関係は、2次曲線式の適用が良好となり、節水率より労働投入費用を算定することが可能となる。



図V-3-3-2 節水率と労働投入費用の関係